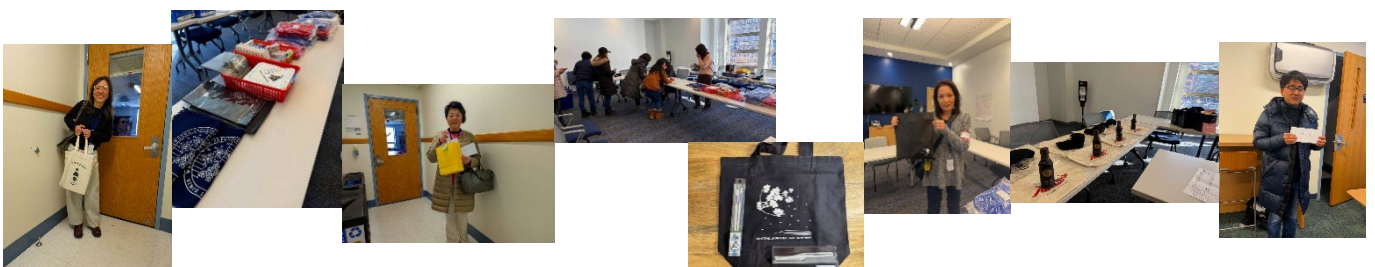


管理運営委員会便 2月号
2026年2月21日発行
ワシントン日本語学校
管理運営委員会広報PS部
koho@wjls.org



学級代表体験記 — 学級を支え、つなぐ保護者の役割 —

学級代表は、クラスと学校、そして保護者同士をつなぐ役割を担います。一年を通して、学校や担任の先生からの連絡事項をクラスに共有したり、運動会をはじめとする行事のお手伝い募集や調整を行ったりします。また、転入生の保護者へのサポートや、行事ごとのお手伝い回数の管理なども大切な役割の一つです。特別な知識や経験が求められるというよりも、クラス全体が円滑に活動できるよう、保護者同士の橋渡しをする存在といえます。今年度、二学年で学級代表をつとめてくださったジェンキンス加奈さんに、体験記をお寄せいただきました。

二つの学年で学級代表をつとめて

小4C組および小1A組の学級代表をつとめております、ジェンキンス加奈と申します。これまで息子のクラスで、学級代表・副代表・アルバム係などを経験してきました。今年度は娘が入学したことをきっかけに、二つの学年で学級代表を引き受けることにしました。これまでも、そして今年度も、クラスの保護者の皆様に本当に恵まれてきたと感じています。特に運動会のお手伝いを募る際には、毎年すぐに申し出てくださる方が多く、学級代表として心強く、とても感謝しています。

学級代表として心がけていること

学級代表をつとめる中で大切にしていることは、連絡をできるだけ分かりやすく、簡潔に伝えることです。メールでの連絡はなるべく箇条書きを用い、要点が一目で伝わるよう心がけています。



なぜ学級代表を続けるのか

今後、子供たちの学年が上がるにつれ、現地校においてボランティアアワーの取得が必須となります。その際、親である私たちが日頃から様々なボランティア活動に参加する姿を見ていることで、子供たち自身が「本当に貢献したい」と思えるボランティアの場を、自主的に選べるようになるのではないかと考えています。

「なぜ毎年、学級代表に立候補するのですか？」と聞かれることがありますが（少し珍しいかもしれませんね）、これが大きな理由の一つです。日本語学校は子供たちにとって大切な居場所であると同時に、親の私にとっても、支え合い、つながりを感じられる大切なコミュニティであり、少しでも貢献できればと思っています。

<< 新年度学級(副)代表(新小学部2年生～新高校2年生の保護者対象)選出について >>

新小2～新高2は2026年度のクラス発表後からおよそ一週間の間、新年度学級代表と副代表の立候補を募ります。立候補締め切りまでに応募がなかったクラスについては、学年代表が免除対象者を除外した上で抽選を行い、選出順位を決定します。上位2名を順に代表、副代表とし、それぞれに選出されたことをご連絡致します。

学級代表は、教室当番・学校行事のお手伝いが免除され、次の学年の学級代表も免除されます。規定による免除が適用になるご家庭の保護者を除き、すべてのご家庭が対象となります。退学や帰国予定のご家庭は、退学届けが立候補締め切り日までに提出されていない限り、抽選対象となっておりますのでご承知おきください。

学級代表の仕事内容は、[学級代表の手引き](#)をご覧ください。（ご覧になる際には2025年度の保護者パスワードが必要です。）

【特集】世界に羽ばたく同窓生の今〈特別編〉

創立 65 周年記念企画としてご好評をいただいた「世界に羽ばたく同窓生の今」が、このたび新たな形でお届けできることとなりました。今回は〈特別編〉として、アメリカで小学校から大学まで学び、その後日本へと拠点を移し、日本語と英語を自在に操りながら世界を舞台に活躍されている同窓生をご紹介します。ぜひご覧ください。

また本企画は、不定期ではありますが、今後も継続してお届けしていきたいと考えています。周囲にご活躍中の同窓生をご存じの方がいらっしゃいましたら、広報部までお知らせいただけると幸いです。



山口 Ray 直人さん

在籍した時期：1993 年～2004 年(小学部 1 年～高等部 2 年)

出身大学：ペンシルバニア州立大学

現在の仕事：写真／映像ディレクター兼カメラマン、洋服ブランド経営

Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

私にとって日本語学校は、「勉強の場」というより、安心できる居場所でした。当時は日本語を必死に学んでいたという感覚はあまりなく、週末に友達と会って遊ぶ延長線上に日本語学校があった、という印象の方が近いです。昼休みや休憩時間には、スポーツやカードゲームをしたり、放課後はクラスメイトの家に遊びに行ったりと、男女関係なくとても仲の良いクラスでした。親の仕事の関係で日本から来た子も多く、日本で流行っている音楽やテレビ、言葉づかいを自然と教えてもらい、アメリカにしながら「今の日本」を身近に感じることができました。



小学校・入学式

左：山口さん 妹と今も仲良しの友人

Q. 卒業まで続けて良かったと思うことは？

一番良かったと思うのは、今も続いている人間関係です。2004 年に卒業してから 20 年以上経ちますが、今でも一緒に飲みに行ったり、結婚式に呼び合ったりと交流が続いています。

当時は想像もしていませんでしたが、日本語学校は一時的な場所ではなく、人生を通して続く縁を作ってくれた場所だったと、今では感じています。

Q. 在学中に保護者が担った役割と感謝していることは？

当時は意識していませんでしたが、週末に日本語学校へ通い続けられたのは、保護者のサポートがあったからこそだと思います。本人は遊びに行っている感覚でも、送り迎えや生活リズムの調整など、多くの支えがあったはずです。今になって、その判断と継続的なサポートにとっても感謝しています。



小学校・卒業式

Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

大学卒業後の2008年に日本へ移り、その年に日本の大手メーカーへ就職しました。最初は知的財産の仕事で、法律と技術の両方を扱う専門職でした。大学では電気工学を専攻し、専門用語はすべて英語で学んでいましたが、日本の職場では、当然ながらすべて日本語でした。思っていた以上に通用せず、会議では必死にメモを取り、席に戻ってから漢字で書き直し、意味を英語で調べながら「ビジネスで使える日本語」を身につけていきました。大変でしたが、日本語学校での基礎がなければ、そもそも日本で働くこと自体が難しかったと思います。その後、転職や独立などもしましたが、基礎があったからこそ、ここまで来ることができたと実感しています。



(写真コメント：メーカーにて、グローバルマーケティングを担当していた頃、その活動が日本のマーケティング業界に大きな影響を与えたことから、会社を代表して広告関連のグランプリを受賞した際のスピーチの様様)

Q. 進学や将来の方向性を決める際、日本や日本語が影響を及ぼしましたか？

結果的に、日本語学校での経験はその後の人生に大きな影響を与えました。日本で就職し、日本で生活し、日本人と結婚し、現在も横浜で暮らしています。

現在は独立し、写真・映像のディレクター／カメラマンとして活動しながら、洋服ブランドの運営にも携わっています。知的財産、マーケティング、コンテンツ制作、ブランディングなど、分野は変わっても、常に中心にあったのは「言語」でした。



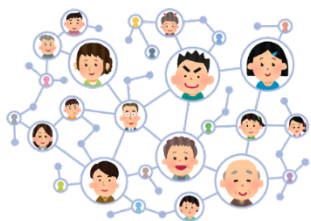
海外ブランドの
撮影を行っている様子

Q. 在校生（保護者）へのメッセージ

どの国にいても、どんな仕事に就いても、人とのコミュニケーションは欠かせません。その中で、バイリンガル、あるいはそれ以上の言語力を持つことは、今後ますます重要になっていくと感じています。日本語学校の価値は、在学中や卒業直後には、すぐに実感しにくいかもしれませんが。私自身も、当時はその意味を深く考えていませんでした。しかし、時間が経ち、進学や就職、人生の選択を重ねていく中で、日本語学校で身につけた言語力や人とのつながりが、思いがけない場面で何度も支えになってきました。語学力だけでなく、多様な背景を持つ人たちと関わりながら育った経験そのものが、将来の選択肢を広げてくれるのだと思います。

時間が経ってから、必ず意味を持つ。私は自分の人生を通して、そう断言できます。

【お知らせ】同窓生ネットワークにご登録ください（広報・パートナーシップ部）



ワシントン日本語学校には、同窓生ネットワークがあることをご存じですか？卒業または退学後も同窓生とのつながりを大切に、同窓生の輪を広げていくことが本校の願いです。今年度、日本語学校を卒業・退学される皆様は、本校ウェブサイトの[同窓生ページ](#)にある専用フォームから、ぜひ同窓生ネットワークへの登録をお願いいたします。登録していただいた方には、学校から定期的なお知らせをお送りします。多くの皆様のご参加をお待ちしています！

また、同窓生ページには、本校の卒業生や元在校生が、過去にさくら新聞やみらい通信に寄稿した多彩なエッセイを掲載しております。エッセイでは本校での学校生活を振り返るとともに、本校での経験がその後の進路にどのように結びついたか、現在どのような分野で活躍しているかについても紹介されていますので、ぜひご覧ください。

【管理運営委員会・総務部のご紹介】～学校を支える、縁の下の力持ちです～

総務部は、5名のメンバーで活動する、学校運営を陰から支える「縁の下の力持ち」のような存在です。規定管理や日々の業務効率化、ITに関する相談対応、行事の準備など、目立たない部分を丁寧に整えながら、子供たちや先生方、事務局員が安心して学校生活を送れるよう日々支えています。今年度も、入卒業式や運動会の運営支援をはじめ、ITサポートや各種当番制度の支援など、保護者と教務をつなぐ裏方として、本校運営に欠かせない役割を担ってきました。また、クラブ活動や教室、サイエンスサロンなど、放課後の学びが円滑に進むよう環境を整え、子供たちの「やってみたい!」という気持ちをそっと後押ししています。

元来総務部の活動は、他の部署との連携によって成り立っています。広報部や事務局と協力してウェブサイトを整えたり、委員長・教育人事部・事務局と連携して業務の効率化を支援したりと、学校全体の動きを下支える役割を果たしています。表に出ることは少なくとも、こうした積み重ねが学校の日常を支えています。また、総務部の体制は毎年少しずつ入れ替わりがあります。子供の成長や家庭の状況に合わせて関わり方が変わる中で、その年ごとのメンバーで役割を分担し、無理のない形で活動を続けています。こうした柔軟さも、長く続いている理由のひとつです。

すでに2026年度に向けた準備も少しずつ始まっており、今年度の振り返りをもとにした保護者役割分担の改善など、来年度が滞りなく始まるよう、見えない部分から土台づくりを進めています。総務部員として主に必要とされるのは、Googleワークスペースを活用した文書管理や、Excelを使った基本的な作業のスキルです。一方で、それだけに限らず、これまでに培ってきた幅広い知識や経験を活かせる場面も多くあります。「学校のために何かできたら」「裏方として支える活動に関心がある」——そんな気持ちがあれば、経験は問いません。できる範囲で、無理なく関わっていただけます。

総務部は、アメリカでの経験や日本での経験など、それぞれの背景や得意分野を活かせる場もあります。ITや文書管理、行事運営など、多様な視点が裏方の仕事に活かされ、「自分の経験が学校を支えている」と実感できる場面が多くあります。目立たなくても、なくてはならない存在であること。得意なことを持ち寄り、声を掛け合いながら、笑顔で支え合う——それが総務部という「縁の下の力持ちチーム」です。あたたかく和やかな雰囲気の中で、今日も学校を支えています。



委員の任期満了や帰国で欠員が出る事があります。

学校運営を支える「縁の下の力持ち」として、できる範囲で関わってみませんか。

こんな方に向いています

- 学校の運営を、できる範囲で支えてみたい方
- 「何かお手伝いできることがあれば」と思っている方
- 事務作業や調整役に興味がある方
- コツコツとした作業が得意な方
- 学校の仕組みを学びたい方
- 初めて委員会やボランティアに参加する方

少しでもご興味がありましたら、どうぞお気軽に[お問い合わせ](#)ください。

委員長からの報告

皆様、1月末の大雪もだいぶ溶けてきたようですね。多くの地域で1週間は現地校が休校になったり、氷にふさがれて車が動かせなかったりと、色々な不便があった方も多かったと思います。

今月の管理運営委員会では、2026年度に向けた予算の審議が行われました。日本語学校では、来年度の予測生徒数を元に予算を組み立てており、物価や各種コストが上昇する中、できる限り急激な学費の上昇を抑えられるよう様々なアイデアを出し合っています。今日本語学校に通っている皆さんの環境を整えつつ、これから入学してくる皆さんへの門戸も可能な限り広く保ちつつ、コストは出来る限り削減しつつ・・・というなかなか難しい状況ではありますが、できる事を進めて参ります。

先月もご案内しましたが、3月の卒園式や卒業式を始めとして4月まで、保護者の皆様にお手伝いをお願いする行事が続きます。この「お手伝い」は、学級単位の教室当番や、安全当番・図書当番のような役割分担とは異なるカウントになっています。ご自身のお子さんの学年がかかわるイベントではないかもしれませんが、ご自身のお子さんが卒業・入学する時には、他の保護者が行事のお手伝いをして下さっています。持ちつ持たれつの精神で、ぜひご協力いただければと思います。

引き続き、保護者の皆様からのワシントン日本語学校および管理運営委員会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



委員長： 栗原美恵
副委員長： 大久保智夫
総務部： 大光麻紀子（部長）・青柳陽介・魚澤智子・カリクレッテ郁子・ジャコブソン彩子
財務部： 安東宇（部長）・井上八重子
教育人事部： 向山こずえ（部長）・黒木友里・寺部正記・中村公紀
広報・PS部*： 竹内由美（部長）・横山優子・渡部智彦
学年代表： ジョーンズ紀子（低・中学年代表）・シーブルック留実（高学年代表）

* 広報・パートナーシップ部の略

